

(別添2)

No.	3
策定年月	令和3年4月
見直し年月	-

麦・大豆産地生産性向上計画 新庄市産地 (作成主体:新庄市)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

新庄市は、全耕地面積に対して水稻の作付割合が約6割を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、非主食用米の生産拡大、園芸作物の導入等と併せて、大豆の生産を拡大する必要がある。

大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い大豆産地づくりを推進していく。

また、実需者のニーズを把握しながら、地域に適した品種の生産を拡大するとともに、排水対策や土壤改良を進め、単収の安定化を実現する。

現在、新庄市においては、水田収益力強化ビジョンにより、新庄市内の水田において適地適作を基本とした作物生産の維持・拡大を図っているが、本計画において、大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者との連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

倒れにくく大粒良質で高タンパクの大豆品種「里のほほえみ」を中心に約44t(令和2年産)が、主に豆腐加工用に販売されているが、近年、単収の不安定さにより安定供給が達成できておらず、県全体の方針と連携を図りつつ、作付面積の拡大と生産性の向上による生産量の増加を図る必要がある。

(2) 生産における現状と課題

大豆については作付面積は減少傾向にあり、単収についても年度間での変動が大きく不安定で、長期的には低下傾向となっている。このため、生産量も長期的には低下傾向となっている。

単収低下の原因として、排水不良や地力低下等が考えられる。収量を向上させるためには、排水対策や、土壌診断に基づいた施肥や土壌改良資材の施用等が必要である。

さらに、近年は、担い手への農地集積が進み、1農家あたりの作業面積が拡大しており、適期作業を実現するには、機械の導入やオペレーターを整備し、各集落の生産組合への集約化による機械の共同利用が必要である。

作業の効率化を図るには団地化等の推進が必要となるが、現状では、大豆ほ場が点在しており、団地化率は低く、各集落における団地化の取組が課題となっている。